

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	44人	算数	44人	理科	44人
第5学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人

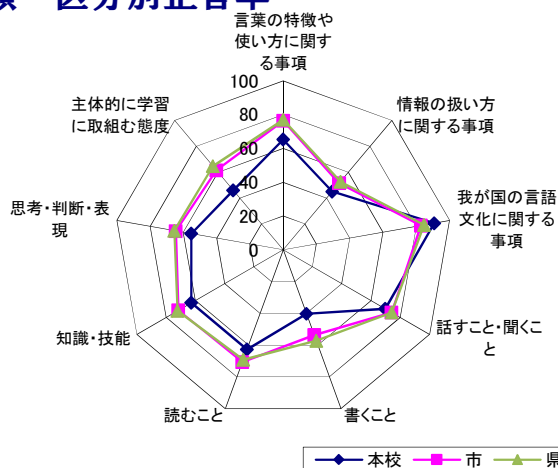
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	65.3	76.4	77.0
	情報の扱いに関する事項	45.0	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	90.7	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	69.8	74.1	74.2
	書くこと	40.3	53.7	57.2
	読むこと	62.8	70.7	69.2
観点	知識・技能	62.8	71.6	72.3
	思考・判断・表現	55.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	46.0	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

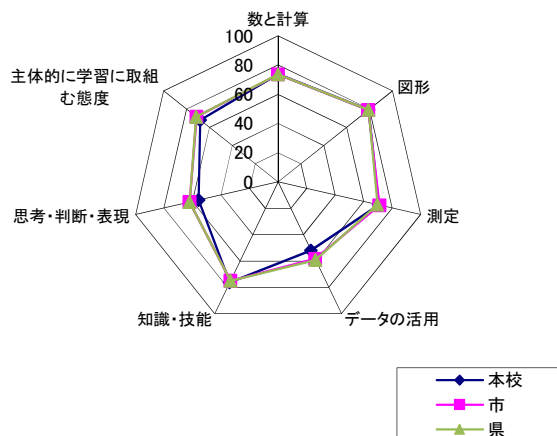
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を10ポイント余り下回っている。</p> <p>○「様子や行動を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。」についての問題では、県の平均とほぼ同等である。</p> <p>●ローマ字で表記されたものを正しく読む問題に課題が見られる。</p> <p>●漢字に関しては、読むこと・書くこといずれも定着していない。</p>	<p>・主語と述語の理解や語彙を豊かにすること、国語辞典の使い方についての理解は、県の平均とほぼ同等であるため、これまでの指導を継続していく。</p> <p>・ローマ字表記についての理解が不十分のため、これまでの指導に加え、振り返りや繰り返し学習を行う機会を設け、ジャストスマイル等を活用し、基礎基本の定着を図る。</p> <p>・毎日の漢字練習において、正しく漢字を読んだり書いたりすることができるように、その意味だけでなく使い方も正しく理解させる。また、生活の中でも積極的に習った漢字を使いこなせるように指導していく。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>平均正答率は市の平均を下回っている。</p> <p>○国語辞典の使い方についての理解は、県の平均とほぼ同等である。</p> <p>●情報を理解し、考えや理由の関係を明確にし書く問題に課題が見られる。</p> <p>●情報の理解に加え、その内容を要約する問題に課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で日常的に国語辞典を活用することにより、国語辞典の使い方により更に慣れさせるとともに語彙を増やしていく。</p> <p>・一つのテーマについて、自分の意見や考えをもち、その根拠を明確にするために、発表や書く活動を取り入れるよう工夫する。</p> <p>・情報の中心となる語や文を見付け、その箇所にマーカーをするなどして可視化する指導を継続し、理解につなげていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○漢字のへんやつくりについての問題では県の平均を上回っており、知識が定着している。</p>	<p>・新出漢字等の学習では、これまでの指導を継続し、繰り返し指導するだけでなく、漢字の部首や熟語についても併せて指導することでさらなる定着を図っていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○話し合いの内容を聞き取る問題では、県の平均とほぼ同等である。</p> <p>●自分の考えを、理由を挙げて話す問題に課題が見られる。</p>	<p>・自分の考えを発表する場面では、「○○だから、～と思います。」などの発表の形式にのっとって話すことを引き続き指導していくことで、理由を伴った発表ができるよう工夫する。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を大きく下回っている。</p> <p>●文を書くという活動に苦手意識が高い様子が見られる。</p> <p>●文を書くときに必要な構成、特に自分の考えについての理由を書くことができていない。</p>	<p>・短文の作文指導や日記指導を取り入れ、「文章を書くこと」に抵抗感を持っている児童を減らしていく指導を行う。</p> <p>・自分の考えを文章に書く際に、段落構成や考えた理由などを項目立ててメモ等にするなどし、スモールステップで書く学習を進める。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○物語文の場面の様子を叙述を基に捉える問題では、県の平均を上回っている。</p> <p>●物語文に比べ、説明文での問題の読み取りに課題が見られる。</p> <p>●説明文では、叙述を基にした問題の読み取りに課題が見られる。</p>	<p>・物語文を読む際に、言葉や動作、表情など登場人物の気持ちが表れている文章に線を引いて意識付ける指導を継続して行う。</p> <p>・説明する文章を読むときには、要点や指示語に注目させ、文章構成を考えて読み、整理する指導をしていく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.8	73.5	73.6
	図形	79.1	79.0	79.1
	測定	70.7	71.1	69.8
	データの活用	51.9	58.4	59.2
観点	知識・技能	76.2	75.0	75.0
	思考・判断・表現	55.8	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	68.1	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

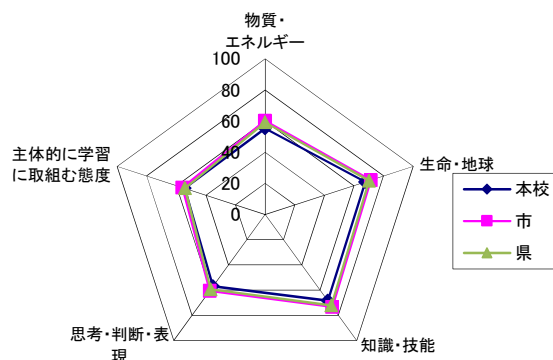
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と同程度である。</p> <p>○位取り記数法を理解し、大きな数を表すことができている。</p> <p>○整数－小数第一位の計算が、市の正答率よりも13.8ポイント高い。</p> <p>●小数の相対的な大きさの理解が十分ではない。</p> <p>●波及的繰り下がりのある計算や、2けた×2けたの計算に課題が見られる。</p>	<p>・正確に計算ができるようにステップアップシート、プリント集などを活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。</p> <p>・復習の時間を設け、繰り返し同じパターンの問題に取り組みさせて計算の仕組みを理解させる。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均と同程度である。</p> <p>○球の半径から球が一つ入った箱の長さを求める問題では、市の平均正答率より10.3ポイント高い。</p> <p>●円の半径についての理解が十分ではない。</p> <p>●正三角形の作図が、市の平均正答率よりも若干低い。</p>	<p>・朝の学習などを利用して、作図などの基本的な図形のかき方の復習問題に繰り返し取り組ませる。</p> <p>・授業の中で、児童が主体的に考える時間を設け、基本的な図形の定義や性質についての理解を深める。</p>
測定	<p>平均正答率は、市の平均と同程度である。</p> <p>○はかりの目盛を読み取って、重さを求めることができる。</p> <p>○ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求めることができ、1分＝60秒の関係を理解している。</p> <p>●単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になる定義の理解が十分ではない。</p>	<p>・具体物を活用することで、量感を捉え、理解が深まるようにする。</p> <p>・身近な日常生活において、量感を意識した指導を行う。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を6.5ポイント下回っている。</p> <p>○複数の棒グラフを組み合わせたグラフを正しく読み取る問題では、市の平均正答率より若干上回っている。</p> <p>●文章問題の題意を捉えて、正しい選択肢を選ぶことに課題が見られる。</p>	<p>・理科や社会など、他の教科の学習でも調べたことのみなど学習に棒グラフを取り入れていくようにする。</p> <p>・引き続き、自分の考えを言葉や式、図などを用いて説明する活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	55.3	60.2	59.2
	生命・地球	67.7	71.3	70.3
観点	知識・技能	68.5	73.4	72.3
	思考・判断・表現	56.9	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	54.4	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は市の平均を5ポイントほど下回っている。</p> <p>○回路を理解し、豆電球の明かりのつき方を推測することができる。</p> <p>●鏡の枚数を増やして光を重ねた部分の明るさと温度の関係の理解に課題が見られる。</p> <p>●物の重さに関して、予想が正しい場合に得られる実験結果を推測したり、重さの性質を考察したりする問題に課題が見られる。</p>	<p>・4学年の電気についての学習において、回路について引き続き学習するとともに、電気を通すもの・通さないものについても繰り返し復習し、理解を深めていく。</p> <p>・朝の学習や宿題等で復習プリントを活用したり、日常生活と結び付けたりして、明るさと温度の関係の理解を深めていく。</p> <p>・宿題等で復習プリントに取り組みせたり、素材によって同じ体積でも重さが違うことを折にふれて日常生活と結び付けて話したりして理解を深めていく。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は市の平均をやや下回っている。</p> <p>○モンシロチョウがキャベツの葉にたまごを生む理由を説明する設問の平均正答率は、市の平均を大きく上回っていて、モンシロチョウの幼虫の食べ物について理解できている。</p> <p>●虫めがねの正しい使い方など、用具の使用の仕方の理解に課題が見られる。</p> <p>●ホウセンカの成長のグラフから、よく成長した期間を読み取り、記録カードと結び付けるなど、複数の内容を統合的に考える問題に課題が見られる。</p>	<p>・植物の観察の際に、昆虫の食べ物と卵を産む場所の関係とを結び付けて復習する。</p> <p>・植物や昆虫を観察する際に、繰り返し虫めがねの正しい使い方を確認し、知識の定着を図っていく。</p> <p>・類似の問題を解く練習をしたり、算数の折れ線グラフの学習と関連させたりして理解を深めていく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は9割を超えており、家庭学習が習慣化されている。家庭学習強化週間を設定し、保護者に協力を求めてきた成果が表れている。今後は、宿題だけでなく自分で考えて学習できるように指導を継続していきたい。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」と回答した児童の割合は市の平均を上回っており、学習への意欲が感じられる。今後も児童の学びの意欲を大切にしながら、学ぶ楽しさを感じられる学習展開を工夫していきたい。

○「毎日、朝食を食べている。」と回答した児童の割合は9割を超えており、望ましい生活のリズムができています。今後も保護者の協力を得ながら、基本的な生活習慣の徹底を図ってまいります。

○「平日に1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」の問いに、1時間よりも少ないと回答している児童が最も多い。家庭でゲーム時間のきまりがある児童も多く、節度を守ってゲームをしていることがうかがえる。引き続き保護者と連携しながら様子を見守っていく。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている。」と回答した児童の割合は、市の平均を下回っている。生活の基本である早寝早起きが身に付くように、懇談会や学年だより等で保護者への啓発を図っていく。

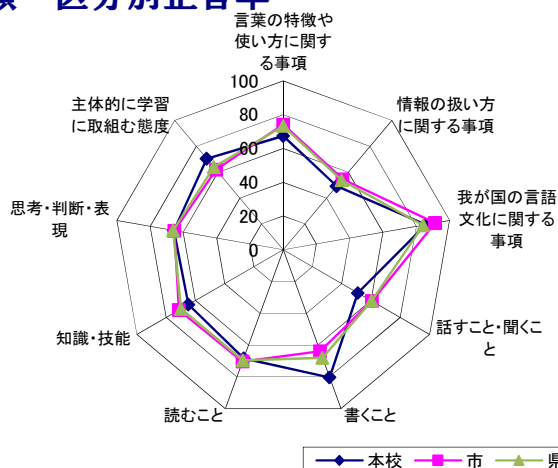
●「だれに対しても、思いやりの心をもって接している。」と回答した児童は市の平均を下回っている。道徳の時間をはじめとして、学校生活のあらゆる場面で、思いやりの大切さについて考える機会を設定するとともに、自分の優しさに気付いていない場合も考えられるので、思いやりある行いができている児童を紹介するなどして人権意識を高めていきたい。

●「家でのきまりや約束を守っている。」と回答した児童の割合は、市の平均を下回っている。学校生活の様々な場面できまりの大切さについて考えさせたり、家でのきまりと関連付けて話して聞かせたりして、規範意識を高めていきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	67.4	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	49.2	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	85.7	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	51.0	60.6	60.4
	書くこと	80.4	63.8	68.0
	読むこと	68.3	70.4	69.6
観点	知識・技能	64.8	71.3	69.9
	思考・判断・表現	65.7	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	70.5	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

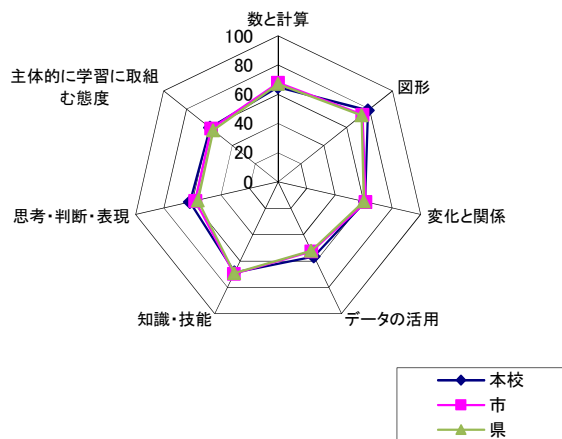
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○主語を詳しくしている修飾語を選ぶ問題では、平均正答率が69.0%と市の平均の56.6%よりも10ポイント以上高く、約7割の児童が理解している。</p> <p>●漢字を読んだり書いたりする問題においては、6問全てにおいて市の平均を下回っており、既習の漢字が定着していないことが分かる。</p>	<p>・文の基本的な構成要素である主語、述語、修飾語等を意識して読んだり書いたりできるようにしていく。</p> <p>・既習漢字においては、児童自身ができている部分とできていない部分を把握した上で、自分に合った勉強方法を取り入れ、しっかりと身に付くように工夫して指導していく。また、生活の中でも積極的に習った漢字を使いこなせるように指導していく。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○漢字辞典の使い方を問われる問題においては、8割近い児童が正答しており、市の平均と同等だった。</p> <p>●話し合いの様子から、情報を読み取り記述で回答する問題においては、平均正答率が33.3%と低く、情報を読み取ったり活用したりすることに課題が見られた。</p>	<p>・意味の分からない言葉や漢字があったときには、自ら国語辞典や漢字辞典を使って調べる習慣が身に付くよう、授業の中でも積極的に取り入れて活用する。</p> <p>・国語だけでなく様々な教科で複数の事柄を扱った問題に取り組ませることで、目の前にある情報を的確に把握して整理し、根拠をもって自分の考えを書いたり述べたりすることができるようにしていく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>●文章に合うことわざ「さるも木から落ちる」を選ぶ問題では、平均正答率が85.7%で市の平均正答率を少し下回っている。</p>	<p>・ことわざや慣用句を日常生活の会話の中で教師が積極的に用いることで、児童が親しみをもってその意味と使い方が理解できるようにする。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○話し手が伝えたいことの内容を捉えることについてはよくできている。</p> <p>●話し手が、話の中心を明確にするためにどのような工夫をしているかを問われる問題においては、平均正答率が38.1%と低かった。</p>	<p>・教師や友達の話を聞く際には、相手の意図することを考えながら、大切な部分を落とさずに聞けるように指導していく。また、朝の会などでスピーチをする機会を設定し、例を挙げながら話したり、聞き手に問いかけながら話したりするなどの工夫をした話し方ができるようにしていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>○「指定された長さで文章を書くこと」「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くこと」において、よくできていた。</p> <p>●「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くこと」においては、市の平均を上回ったものの、平均正答率は69.0%だった。</p>	<p>・条件を指定して文章を書く練習を取り入れたことにより、文章の書き方が身に付いてきた。今後も文章を書く機会を意図的に取り入れることで、段落構成や文章のまとまりを意識して、読み手に伝わりやすい文章を書くことができるように指導する。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、市の平均をやや下回っている。</p> <p>○説明文に書かれている全体的内容を読み取ることはよくできている。</p> <p>●叙述を基に登場人物の気持ちや文章の内容を捉えることについては、物語文、説明文とも市の平均を下回っている。</p>	<p>・説明文を読む際には、段落ごとに書かれていることを正しく読み取ると共に、段落の役割や文章構成を考えて読むように指導していく。</p> <p>・物語文を読む際には、登場人物の言葉や動作、表情などの気持ちが表れている部分に線を引くなど、細かい描写にも目を向けて読み進めることができるように指導していく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.9	67.8	67.0
	図形	78.6	73.9	73.1
	変化と関係	61.1	61.4	60.2
	データの活用	56.5	52.7	52.1
観点	知識・技能	68.7	69.7	69.2
	思考・判断・表現	61.9	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	59.5	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

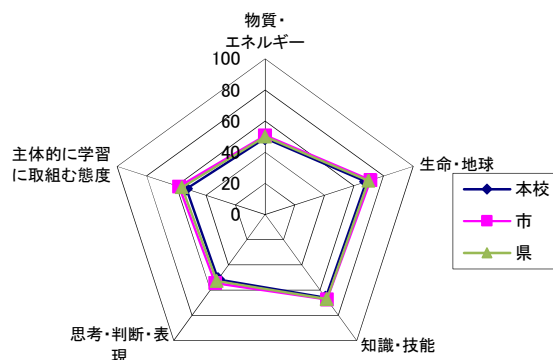
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均をやや下回っている。</p> <p>○分数の大きさや小数のしくみについては、よく理解できている。</p> <p>●「億と兆・がい数の表し方」の理解が十分ではない。</p> <p>●分数や小数の計算においては、ほとんどの問題において正答率が市の平均を下回り、課題が見られる。</p>	<p>・計算ドリルやプリント集などを活用し、基礎的事項の確実な定着を図る。また、間違えた問題はもう一度解く習慣を身に付けさせる。</p> <p>・授業の中で色々な単元の復習の時間を設け、整数、小数、分数の四則計算を確実に身に付けさせる。また、大きな数やがい数においては、社会や総合的な学習、日常生活に出てくる数とも関連付けながら、実感として理解し使えるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○「角の大きさ」については、よく理解できている。</p> <p>○ひし形の作図においては、88.1%の児童が正答しており、市の平均を8ポイント上回った。</p> <p>●1000円札のおよその面積を選択する問題では、正答率が45.2%と半数以上の児童に誤答が見られた。</p>	<p>・基本的な図形の定義や性質についての理解をさらに深め、発展問題にも取り組ませる。</p> <p>・問題を解く際には、提示された情報から問題場面の状況を想像すると共に、答えの検討を立てることを習慣化させる。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均と同程度である。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題においては、正答率が95.2%とほとんどの児童が正答している。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題においては、正答率が31.0%と低く課題が見られる。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量について、その変化に着目して立式できるよう類題に取り組ませる。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○折れ線グラフを読み取ることは、よくできている。</p> <p>●2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題においては、市の平均を上回ったものの、正答率が40.5%と低く課題が見られる。</p>	<p>・グラフを読み取る際には、読み取ったことから分かることを、根拠を元に自分の言葉で説明する活動を取り入れる。また、自分の考えを友達と共有し合うことで、考えを深めたり広めたりすると共に、より良い表現の仕方が身に付くようにする。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	49.0	50.8	50.0
	生命・地球	68.3	71.1	69.8
観点	知識・技能	66.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	51.4	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	53.3	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均と比べて同程度である。</p> <p>○乾電池を直列つなぎと並列つなぎにしたときの電流の流れ方の違いについては、よく理解している。</p> <p>○水を冷やしたり温めたりすると液体や固体にすがたを変えることについて、よく理解している。</p> <p>●乾電池の向きによって電流の向きが変わることについては、正答率が約7%と低く、多くの児童が理解していない。</p> <p>●金属のあたためり方については、実験結果をもとにした正しい考察を選択する問題では、平均正答率が47.6%と半数を下回り、課題が見られた。</p>	<p>・実験などの実感を伴った活動を行う際に、結果の考察を自分の言葉で説明できるよう指導を行っていく。</p> <p>・図から性質を読み取る様々な問題に多く取り組ませ、理解を深めさせる。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均をやや下回っている。</p> <p>○「雨水のゆくえと地面のようす」に関する内容については、平均正答率が市や県よりも高く、よく理解していると言える。</p> <p>●「1年間の植物の成長」に関する内容については、ヘチマのくきののびと気温の変化の関係をグラフから読み取り説明をする設問において、平均正答率が64.3%と低く、県や市の平均よりも10ポイント以上下回った。</p>	<p>・今後も身の回りで起こる事象を身近な問題として捉えさせるような問題提起を行い、主体的に学習に取り組ませることで理解を深めていく。</p> <p>・数値化されたものをグラフ等に表す学習を繰り返し行い、読み取ったことを説明するなど言語化する活動を多く取り入れる。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答は100%で、家で宿題をやる事が定着していることが分かる。今後も自主学習と合わせて、家庭学習の習慣が定着するよう指導していきたい。

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の肯定的回答は73.8%で、県や市の平均よりも5ポイント以上、上回った。間違えた問題については、分からないままにせず、再度解き直す習慣が身に付いていることが分かる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定的回答は85.7%、「勉強していて、不思議だな、なぜだろうと感ずることがある」の肯定的回答は97.6%とどちらも高く、県や市の平均よりも上回っている。児童の学習への興味や関心の高さが伺えるので、今後も学ぶことの楽しさを実感できるような授業を工夫していきたい。

○「先生は学習のことにほめられる」の肯定的回答は97.6%と高く、県や市の平均よりも約10ポイント上回った。また、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定的回答は76.2%と8割には届かなかったものの、県や市の平均よりは上回った。今後も、児童の良さや頑張り認めつつ、児童との信頼関係を築いていきたい。

○毎日朝食を食べている児童が100%、ふだんの睡眠時間が7時間以上の児童が97.6%、毎日同じ時刻に寝ている児童が80.9%と、家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが伺える。今後も保護者の協力を得ながら、基本的生活習慣の徹底を図っていききたい。

●読書の時間が県や市と比べて少ない。4分の1の児童は読書を全くしないという結果が出ている。学校では休み時間に読書をしている姿を多く見かけるので、児童同士がお勧めの本を紹介し合うなどして、本に対する興味をもたせていきたい。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答は47.6%で、県や市の平均よりも約10ポイント下回っている。理科や社会、総合的な学習等で本やインターネットを使用した学習は行っているが、自ら関心を持って調べるところまで到達していないようなので、疑問に思ったことは進んで調べることの大切さと呼び掛けていきたい。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う」の質問では、「いいえ」と回答した児童が28.6%いた。真面目に学習に取り組んでいるが、分からないことを理解できないままにしてしまうことで学習したことが定着せず、自分に自信がもてないことが伺える。児童一人一人がどこまで学習内容を理解しているかを把握し、個別に指導する機会を設けたり、できたことを認め励ますなどしたりして、苦手意識を克服させたい。

●ふだん(月～金曜日)、テレビやビデオ、DVDを視聴している時間が2時間以上の児童は61.9%、また、ゲームを1時間以上している児童が73.8%いた。家庭学習や読書を含めた家庭での時間の使い方をこれからも継続して指導していきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基本的学習習慣、学習における基礎基本の定着	学習のきまりについて職員で共通理解を図り、児童に指導すると共に、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。また、話し方・聞き方のポイントを掲示物で示し、児童が意識しながら話したり聞いたりできるようにする。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」児童は4年生で74.5%、5年生で83.4%と、学習への取り組み方に学年差が見られる。 各教科の知識・技能において、4、5年生共に算数、理科は市の平均と同程度だったが、国語が大きく下回った。
主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくり	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。 互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」児童は4年生で80.9%、5年生で88.1%、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の設問で肯定的回答をした割合は4年生で72.1%、5年生で78.5%である。 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設問で肯定的回答をした割合は、4年生79.1%、5年生が83.4%である。
家庭学習への取り組み	学年の発達段階に応じた家庭学習の時間を設定し、児童が進んで学習に取り組めるよう指導を工夫する。 家庭学習強化週間を設けたり、懇談会等で家庭学習について話題にしたりと、保護者への啓発を図る。	「家で学校の宿題をしている」児童は、4、5年生共に95%を超える。しかし「自分で計画を立てて勉強している」の設問において、肯定的回答の割合は4年生が46.5%、5年生が73.8%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、特に国語において基礎基本の定着が図れていないことが分かった。また、学年、教科によって思考・判断・表現に課題が見られた。	国語の基礎基本の定着 思考、判断、表現力を育てる指導の工夫	既習漢字を反復練習することにより定着を図る。 また、話の中心を捉えて話したり、聞いたりすることができるよう、各教科の授業や朝の会などにおいて意図的に場を設定し、話す力、聞く力を身に付けさせる。更に各教科において、課題における自分の考えを文章や図などに示し、友達と意見交換をするなどして、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
計画的に自ら学習することにおいて、課題が見られる。	家庭学習の推進	学年の発達段階に応じて家庭学習カードなどを活用し、児童が計画的に学習に取り組めるよう指導を工夫する。